(通巻3903号/毎週日曜日発行/2026.10.4)　キリスト品川教会　品川区北品川4-7-40　TEL03(3443)1721

泉のほとり

●三位一体後第十八主日

今月の詩編「第九十九編」

我らの神、主をあがめよ。
その聖なる山に向かってひれ伏せ。
我らの神、主は聖なる方。



キリストの思いをあなたのうちに

ローマで投獄されている使徒パウロからのフィリピ教会への手紙。パウロ先生は苦難の只中にあっても、兄弟たちがキリストにあってきよい者となることを祈り、また自分ゆえに福音が前進していることを喜んでいました。パウロを妬み不純な動機で伝道する人々がいても、「これが福音の前進と自分の救いになる」と語ります。この使徒から、獄中にあっても何にも捕らわれていない、神にあって解放された「たましいの救い」を見るものです。それゆえに、苦難にあるフィリピの兄弟たちにも「キリストのために苦しむことも、恵みとして与えられている」と、この世が決して与えることのできない救いと喜びを示されました。

その上で、パウロ先生は「ですから、あなたがたに幾らかでも、キリストにあっての励まし、愛の慰め、“霊”の交わり、それに慈しみと憐れみがあるなら……心を合わせ、思いを一つにして、私の喜びを満たしてください」と勧めます。「心を合わせ」とは、文字通りに表しますと、「たましいを共にする」という意味です。兄弟たちのたましいが、たましいの牧者であるキリストに向かって命に溢れるものとなり、教会が一つとなって前進していくことを語ったことではないかと思います。

そして、その具体的なあり方として、「何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考えるように」と教えられます。「利己心」とは地位を得るために人を扇動する心であり、「虚栄心」とは空しい栄光や称賛を求める心です。これらは「高ぶり」が根本にあり、人のことより自分のことを優先し、自分が偉く高くあろうとする心です。主イエスは「子供のようになる人が天の国でいちばん偉い」と教えられました。また自分を低くする人、心のへりくだった人のことを「小さな者」とも表されました。しかし、人は自ら小さな者になろうとはせず、むしろ人より低く見られ、後回しにされることには怒りを抱きやすいものです。

ところで、使徒パウロからここで「へりくだって」と教えられ、決心や覚悟一つですぐさま、人の心はそう変えられないものです。私たちにはそれを願い求め、たましいをひとつにし、心をキリストへと向けることは必然的なものです。ということを抑えつつ、へりくだりとは「たましい」の領域、存在そのものの根本的な変革が伴わなければ得られず、それはキリストによるものです。律法のもとでは繰り返し、心がけて意識してもほんのわずかな進歩、しかし、根本的なところは変わらなかったのです。主イエスの十字架はそれを根本から変える力なのです。キリストにより自分が受けた赦しが大きすぎると知っている人は、人を赦すことを意識もせず当然に赦す心へと変えられます。本当のへりくだりは「自分を低くした」という自覚すらなく、自らが実際に低いところに立つゆえに、相手が本当に優れて見えるようになるのです。

パウロ先生は、このへりくだりは「キリスト・イエスにみられるものです」と語りました。キリストは神と等しい身分に固執せず、ご自分を無にして十字架の死に至るまで従順でした。それは、ご自分のことを後にし、人のことを思い、人のために無になられたということです。恥辱をもいとわないこのキリストの霊が私たちのうちに幾らかでもあるなら、私たちはたましいを共にし、キリストという一つの目標に向かって前進するはずです。かつて抱いていた利己心や虚栄心は、もはや塵芥と見えてくるでしょう。

神はこのキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。天上のもの、地上のもの、地下のものがすべてイエスの御名にひざまずき、父なる神をたたえるのです。私たちもこの神のご判断にひざまずき、「アーメン」と声高らかに賛美したいのです。そしてこの世に留まる間、先に歩んだキリスト者たちとたましいを共にし、たましいの牧者である主イエス・キリストに私たちのたましいを向けて歩んでいきましょう。

（フィリピ二章一〜一一節　黄 允湜 牧師）

《私たちのビジョン》

主イエスの愛の中で、
愛と交わりを通して
お互いに成長する教会

《2026年度
教会全体課題》

神さまによって
示された新しい歩みの中で、
キリストの体としての一致を
祈り求める
ーコミュニケーション、交わり、
伝道、学びなどを通してー

《今日のお知らせ》

○礼拝後、地下ホールで信仰者に学ぶ会を行います。聖書、讃美歌をお持ちの上、ご参加ください。

○運営委員会、各小委員会がそれぞれ行われます。

○次回の洗礼式と転入会式は一二月二〇日のクリスマス礼拝の際に行う予定です。受洗・転入会をご希望の方は願書をお書きになり、一〇月一一日(日)までに牧師宛ご提出ください。願書は教会事務所にあります。

○一〇日(土)午後三時から附属幼稚園のミュージカルが礼拝堂で行われます。

《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会はお休みです。

《交読詩篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。
(司・会)の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

【詩篇九十九篇】

主こそ王。
諸国の民よ、おののけ。
主はケルビムの上に御座を置かれる。
地よ、震えよ。
主はシオンにいまし、大いなる方。
すべての民の上に高くいます。
御名の大いなること、畏るべきことを告白せよ。
(司・会)
主は聖なる方。

力強い王、裁きを愛し、公平を固く定め
ヤコブに対する裁きと恵みの御業を
御自ら、成し遂げられる。
我らの神、主をあがめよ。
その足台に向かってひれ伏せ。
(司・会)
主は聖なる方。

主の祭司からはモーセとアロンが
御名を呼ぶ者からはサムエルが、主を呼ぶと
主は彼らに答えられた。
神は雲の柱から語りかけ
彼らに掟と定めを賜り
彼らはそれを守った。
我らの神、主よ、あなたは彼らに答えられた。
あなたは彼らを赦す神
彼らの咎には報いる神であった。
我らの神、主をあがめよ。
その聖なる山に向かってひれ伏せ。
(司・会)
我らの神、主は聖なる方。

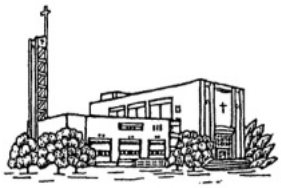
《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)
説　教「神さまの救いの始まり」
聖　書　創世記12章1～9節
説教者　吉村 和雄 名誉牧師

《次週の礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)
説　教「アブラハムの信仰」
聖　書　創世記22章1～19節
説教者　黄 允湜 牧師

●主日礼拝(午前10時30分・礼拝堂)
讃美歌　3番　191番
説　教「すべての人の主」
聖　書　使徒10章34～43節
説教者　宮間 彰広 兄





主日礼拝 (午前１０時３０分)

讃美歌　　７９番　　３５７番
説　教　　「救いを達成するように」
聖　書　　フィリピ２章１２～１８節(新約 P.363)
司　式　　石川 一 兄
聖餐司式　黄 允湜 牧師
説教者　　黄 允湜 牧師

前奏曲「神はわがやぐら」J.S.ﾊﾞｯﾊ

○讃美歌７９番

1.ほめたたえよ つくりぬしを
きよきみまえにひれふし
ささげまつれ 身をも魂をも
たぐいなき御名をあがめて

2.くすしきかな かみのちから
あらぶる波をしずめて
あやうきより 御民を守り
この世のなやみに勝たしむ

3.めぐみの神 さかえの主を
もろごえあげてたたえよ
つよき手もて みちびきたもう
主にのみ みさかえつきざれ
アーメン

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。

○聖歌隊による讃美
「永遠(とわ)にたたえよ」J.P.Sweelinck 作曲
永遠にたたえよ
み神のみ名を
高く歌え
み栄あれと
地の果てまでも
みわざたたえよ

○讃美歌３５７番

1.ちからのみかみよ さかえのわが主よ
とうときみむねを みわざにまなびて
おもいをきよくし 主にのみ従わん

2.あさ日のひかりと かがやくわが主は
こころのやみをも はらわせたまえり
いのちに目さめて われかくよろこぶ

3.わが主よ み神よ わが主の笑みをも
みかみのむちをも みむねとかしこみ
とこ世のはてまで 主にのみ従わん
アーメン

聖餐曲「きよけき心を」G.ﾍﾞｰﾑ

後奏曲「アメリカ風マーチ」M.ﾃﾞｭﾌﾟﾚ